

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | コンピューター | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 黒岩 巳恵子  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 演習      | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | ビジネス社会で活用されているアプリケーションソフトの学習を通して、パソコン操作の基礎・基本を修得する           |
| 到達目標 | Word・Excelを使い、ビジネス文書・レジュメ・POP・売上集計等、卒業後必要と思われる様々な文書の作成法を修得する |

授業計画

|    |              |
|----|--------------|
| 1  | Windowsの基礎知識 |
| 2  | Wordの基礎知識    |
| 3  | Word入門       |
| 4  | Word入門       |
| 5  | Wordの活用      |
| 6  | Wordの活用      |
| 7  | Wordの活用      |
| 8  | Wordの活用      |
| 9  | Wordの活用      |
| 10 | Excelの基礎知識   |
| 11 | Excel入門      |
| 12 | Excel入門      |
| 13 | Excelの活用     |
| 14 | Excelの活用     |
| 15 | 後期のまとめ       |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="checkbox"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |   |
| 使用教材                     | 30時間でマスター Word&Excel2016 (実教出版)                 |
| 履修にあたっての注意               |   |

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | 登録販売者入門 | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 壘 亮平    | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義      | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 登録販売者の基礎知識やセルフメディケーション、ドラッグストア業界の基礎知識や販売戦略、接客マナーやグループワークなど。    |
| 到達目標 | ドラッグストア業界、登録販売者の制度や役割について理解し、現場でセルフメディケーション推進や基本的な接客が出来るようにする。 |

## 授業計画

|    |                        |
|----|------------------------|
| 1  | 登録販売者についての基本的な知識       |
| 2  | ドラッグストアについての基本的な知識     |
| 3  | セルフメディケーションについての基本的な知識 |
| 4  | ドラッグストアでの販売戦略について      |
| 5  | ドラッグストア業界の現状           |
| 6  | 登録販売者として知っておくべき疾患      |
| 7  | 登録販売者を目指すための現場での働き方    |
| 8  | 接客の基本的知識、マナー           |
| 9  | 栄養ドリンクの基礎知識、試飲会の仕方     |
| 10 | 接客ロールプレイング             |
| 11 | 接客ロールプレイング             |
| 12 | ドラッグストアの業界研究 グループワーク   |
| 13 | ドラッグストアの業界研究 グループワーク   |
| 14 | ドラッグストアの業界研究 グループワーク   |
| 15 | ドラッグストアの業界研究発表         |

|                          |                |                        |
|--------------------------|----------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |                | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○              | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者テキスト、配布資料 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                |                        |

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | 登録販売者入門 | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 壘 亮平    | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義      | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | ドラッグストア各社の違いや、頭痛や疲れに対するの対応の仕方について。また、パワーポイントの初歩的な使い方やプレゼンの仕方なども併せて学習する。  |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりのドラッグストアの強みや特徴を理解する</li> <li>・身近な不調として頭痛や疲れへの初期対応ができるようにする</li> </ul> |

## 授業計画

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | ドラッグストア各社の違い、特徴について。            |
| 2  | 栄養ドリンクについて 医薬品、医薬部外品、清涼飲料水      |
| 3  | カフェインについて 作用と副作用                |
| 4  | エナジードリンクについて カフェインの過剰摂取の危険性について |
| 5  | 栄養ドリンクに含まれるビタミンについて ビタミン主製剤について |
| 6  | 頭痛について 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛など         |
| 7  | 様々な頭痛への対応 解熱鎮痛薬の基礎知識            |
| 8  | 解熱鎮痛の主成分や補助成分について               |
| 9  | 様々な頭痛への対応 解熱鎮痛薬の基礎知識            |
| 10 | 解熱鎮痛の主成分や補助成分について               |
| 11 | ドラッグストア関係のプレゼンテーション 資料作成        |
| 12 | ドラッグストア関係のプレゼンテーション 資料作成        |
| 13 | ドラッグストア関係のプレゼンテーション 資料作成        |
| 14 | ドラッグストア関係のプレゼンテーション 資料作成        |
| 15 | ドラッグストア関係のプレゼンテーション 発表          |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する<br><input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |  |
| 使用教材                     | 登録販売者テキスト、配布資料   |
| 履修にあたっての注意               |  |

|       |          |          |        |
|-------|----------|----------|--------|
| 科目名   | 登録販売者の責務 | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 壘 亮平     | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義       | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 登録販売者試験には出てこないが、医療従事者として知っておくべき内容。子ども、高齢者、女性特有なものなど。また、緊急時の対応方法や東洋医学など。  |
| 到達目標 | 登録販売者として、子供や高齢者、女性特有な不調も考慮しながら対応ができるようにする。また、様々な相談や緊急時などの対応ができるよう自信をつける。 |

## 授業計画

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 1  | オリエンテーション 登録販売者とセルフメディケーション          |
| 2  | 登録販売者制度について                          |
| 3  | 妊娠・出産・育児 妊娠検査薬、妊娠中の栄養や病気             |
| 4  | 妊娠時の生理機能の変化と薬効 妊婦・授乳婦に必要な医薬品         |
| 5  | 補完・代替医療 西洋医学と東洋医学 アーユルヴェーダ           |
| 6  | アロマセラピー・ハーブ療法・エステティック・カラーセラピー        |
| 7  | 遠赤外線療法・気功・クレイセラピー・カイロプラクティック・伝承療法    |
| 8  | 介護 介護の基礎知識、高齢者の特徴、認知症、褥瘡             |
| 9  | リハビリテーション 理学・作業・言語療法、脳卒中、関節リウマチ      |
| 10 | 高齢者の生理機能と薬効 小児の生理機能と薬効               |
| 11 | 応急処置 AED使用の手順、心肺蘇生法の基本、救急車の呼び方、トリアージ |
| 12 | 応急処置 止血法、衛生用品、外傷の種類と応急処置、吐血と喀血       |
| 13 | 毒薬、劇薬について 麻薬、覚せい剤について                |
| 14 | こころに関係する病気 心身症、うつ病、摂食障害、不眠症          |
| 15 | こころに関係する病気 外傷後ストレス障害（PTSD）、依存症       |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="checkbox"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |   |
| 使用教材                     | 登録販売者テキスト、配布資料                                  |
| 履修にあたっての注意               |   |

|       |          |          |        |
|-------|----------|----------|--------|
| 科目名   | 登録販売者の責務 | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 壘 亮平     | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義       | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 登録販売者試験合格後の登録方法と外部研修について。社会人になる前の予備知識。セルフメディケーションに関する情報提供。          |
| 到達目標 | 登録販売者として、自信をもって社会人になれるようにする。また、セルフメディケーション推進にしっかり貢献できるよう自分の情報量を増やす。 |

## 授業計画

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 1  | 登録販売者試験合格後から販売従事登録証の発行までの流れ   |
| 2  | 登録販売者研修について 外部研修の受講義務と必要性     |
| 3  | アルバイトと社員の違い 医薬品担当と化粧品担当について   |
| 4  | 登録販売者としての責任 医薬品副作用救済制度        |
| 5  | クレーム対応について クレームとクレーマーへの対応方法   |
| 6  | セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成 |
| 7  | セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成 |
| 8  | セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成 |
| 9  | セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成 |
| 10 | セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成 |
| 11 | セルフメディケーションに関するプレゼン パワーポイント作成 |
| 12 | セルフメディケーションに関するプレゼン 発表        |
| 13 | セルフメディケーションに関するプレゼン 発表        |
| 14 | セルフメディケーションに関するプレゼン 評価と感想     |
| 15 | セルフメディケーション推進と今後の目標           |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する           |
|                          | <input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |  |
| 使用教材                     | 登録販売者テキスト、配布資料                               |
| 履修にあたっての注意               |  |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 人材育成論 | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 作能 弘光 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 企業で働く上で業務を円滑に進めていくためにはいわゆる「常識」や「教養」を必要とされる場面が数多くあります。特に接客業においてはお客様との会話をスムーズに行うためにも常識的な知識が要求されることになります。また企業では採用試験の際に一般教養の試験を課し、面接に加え選抜や可否の参考にしています。授業では国語・歴史・地理・経済・数学・英語・時事問題を中心に学びます。 |
| 到達目標 | 一般的な常識や一般教養の基礎を習得することを目標とします。   |

授業計画

|    |                                |
|----|--------------------------------|
| 1  | オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、科目の必要性） |
| 2  | 一般教養（1） 国語①、地理①                |
| 3  | 一般教養（2） 国語②、数学①                |
| 4  | 一般教養（3） 国語③、歴史①                |
| 5  | 一般教養（4） 英語①、数学②                |
| 6  | 一般教養（5） 国語④、数学③                |
| 7  | 一般教養（6） 地理②、時事問題               |
| 8  | 一般教養（7） 歴史②、英語②                |
| 9  | 一般教養（8） 数学④、数学⑤                |
| 10 | 一般教養（9） 国語⑤、数学⑥                |
| 11 | 一般教養（10） 国語⑥、英語③               |
| 12 | 一般教養（11） 数学⑦、数学⑧               |
| 13 | 一般教養（12） 政治経済①、政治経済②           |
| 14 | 一般教養（13） 国語⑦、時事問題              |
| 15 | 一般教養（14） 数的推理①                 |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | 筆記試験で評価する  |
|                          | <input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する             |
| 授業時間外の学習                 | 復習は特に大事ですので注力してください。また、時事問題には監視を持ち特に業界との関連性を意識しておいてください。 |
| 使用教材                     | 就職筆記試験問題集（株式会社ウィネット編）。時事問題については新聞等を参考資料として使用。            |
| 履修にあたっての注意               | 授業を欠席した際には必ずその授業で行われた問題を解き、指導を仰ぐようにして下さい。                |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 人材育成論 | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 作能 弘光 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 企業で働く上で業務を円滑に進めていくためにはいわゆる「常識」や「教養」を必要とされる場面が数多くあります。特に接客業においてはお客様との会話をスムーズに行うためにも常識的な知識が要求されることになります。また企業では採用試験の際に一般教養の試験を課し、面接に加え選抜や可否の参考にしています。授業では国語・歴史・地理・経済・数学・英語・時事問題を中心に学びます。 |
| 到達目標 | 一般的な常識や一般教養の基礎を習得することを目標とします。   |

授業計画

|    |                      |
|----|----------------------|
| 1  | 一般教養（15） 国語⑧、地理③     |
| 2  | 一般教養（16） 国語⑨、数学⑨     |
| 3  | 一般教養（17） 国語⑩、歴史③     |
| 4  | 一般教養（18） 英語④、数学⑩     |
| 5  | 一般教養（19） 文章表現        |
| 6  | 一般教養（20） 数的推理②       |
| 7  | 一般教養（21） 数的推理③       |
| 8  | 一般教養（22） 政治経済③、政治経済④ |
| 9  | 一般教養（23） 歴史④、地理④     |
| 10 | 一般教養（24） 英語⑤、英語⑥     |
| 11 | 一般教養（25） 現代社会        |
| 12 | 一般教養（26） 時事問題        |
| 13 | 一般教養（27） 数学⑪、数学⑫     |
| 14 | 一般教養（28） 判断推理①       |
| 15 | 一般教養（29） 判断推理②       |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | 筆記試験で評価する  |
|                          | ○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する                                 |
| 授業時間外の学習                 | 復習は特に大事ですので注力してください。また、時事問題には監視を持ち特に業界との関連性を意識しておいてください。 |
| 使用教材                     | 就職筆記試験問題集（株式会社ウィネット編）。時事問題については新聞等を参考資料として使用。            |
| 履修にあたっての注意               | 授業を欠席した際には必ずその授業で行われた問題を解き、指導を仰ぐようにして下さい。                |

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | ビジネスマナー | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 緑川 恵    | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義      | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | ビジネスマナーに対する理解を深めるとともに、社会における振る舞いを念頭において、より実践的なスキルを身につけてもらいます。 |
| 到達目標 | 社会人1年目として、改めて入社後の教育を受ける必要がない程度に考え方や振る舞いができるようになることを目標とします。    |

## 授業計画

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 1  | ビジネスマナーの基本、お辞儀、挨拶について         |
| 2  | 働く意識、コミュニケーション、コンプライアンス、CS    |
| 3  | 身だしなみ、敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語）         |
| 4  | 敬語の使い分け、二重敬語、誤用               |
| 5  | 電話対応①（対応用語、受け方、かけ方）           |
| 6  | 電話対応②（ロールプレイング）               |
| 7  | 電話対応③（伝言メモの作成）                |
| 8  | 来客対応（対応用語、案内、茶菓の接待）           |
| 9  | 名刺交換のマナー、紹介のマナー               |
| 10 | ビジネス文書① 社内文書、社外文書             |
| 11 | ビジネス文書② 社外文書の構成（前文、主文、末文）、社交文 |
| 12 | 慶事のマナー（結婚式のマナー、賀寿、正礼装）        |
| 13 | 贈答のマナー、弔事のマナー                 |
| 14 | お見舞いのマナー、食事のマナー               |
| 15 | 後期授業のまとめ                      |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | 筆記試験で評価する  |
|                          | <input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する   |
| 授業時間外の学習                 | 社会人にとってコミュニケーション能力は重要です。学校、アルバイト先などにおいてもコミュニケーション能力の向上に努力してください。また、普段から新聞、ニュースにも目を向けてください。 |
| 使用教材                     | ビジネスマナー基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）  |
| 履修にあたっての注意               | グループワークやロールプレイングには積極的に取り組んでください。テキストの理解に加え実践することでスキルが身につけていきます。                            |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 販売士   | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 武井 宣之 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 小売店舗を運営する為の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけて、販売業務に活かすことを目指します。 |
| 到達目標 | 小売業の様々な類型とマーチャンダイジングの基礎やストアオペレーションの基礎を学び、販売に役立てる。        |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | 小売業とは何か 流通機構における小売業の役割                 |
| 2  | 主要商品別流通経路の基礎知識①・②                      |
| 3  | 流通経路における小売業のポジショニング、卸売業のポジショニング        |
| 4  | 製造業の流通経路政策の基礎知識 組織小売業の種類と特徴            |
| 5  | 販売形態の種類と特徴 小売業の基本的役割                   |
| 6  | 専門店 百貨店 総合品揃えスーパー（GMS）                 |
| 7  | スーパーマーケット（SM）・スーパーセンター（SuC）ホームセンター（HC） |
| 8  | ドラッグストア（DgS）コンビニエンスストア（CVS）            |
| 9  | チェーンストアとチェーンオペレーション 中小小売業の役割           |
| 10 | 商店街 ショッピングセンター                         |
| 11 | 商品とは 商品の分類と本体要素 マーチャンダイジングの基本          |
| 12 | CVSのマーチャンダイジングの基本 商品計画の基礎知識 棚割とディスプレイ  |
| 13 | 仕入計画の基礎知識 発注の基本 物流の基礎知識                |
| 14 | 在庫管理の基本 POSシステムの仕組み バーコードの仕組み          |
| 15 | 価格の設定要因と価格政策 売価決定計算法                   |

|                          |                         |                        |
|--------------------------|-------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>   | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>   | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 販売実習等での経験及び様々な販売形態の店舗見学 |                        |
| 使用教材                     | リテールマーケティング テキスト&問題集    |                        |
| 履修にあたっての注意               |                         |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 販売士   | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 武井 宣之 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 小売店舗を運営する為の基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけて、販売業務に活かすことを目指します。 |
| 到達目標 | 小売業の様々な類型とマーチャンダイジングの基礎やストアオペレーションの基礎を学び、販売に役立てる。        |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | 小売業とは何か 流通機構における小売業の役割                 |
| 2  | 主要商品別流通経路の基礎知識①・②                      |
| 3  | 流通経路における小売業のポジショニング、卸売業のポジショニング        |
| 4  | 製造業の流通経路政策の基礎知識 組織小売業の種類と特徴            |
| 5  | 販売形態の種類と特徴 小売業の基本的役割                   |
| 6  | 専門店 百貨店 総合品揃えスーパー（GMS）                 |
| 7  | スーパーマーケット（SM）・スーパーセンター（SuC）ホームセンター（HC） |
| 8  | ドラッグストア（DgS）コンビニエンスストア（CVS）            |
| 9  | チェーンストアとチェーンオペレーション 中小小売業の役割           |
| 10 | 商店街 ショッピングセンター                         |
| 11 | 商品とは 商品の分類と本体要素 マーチャンダイジングの基本          |
| 12 | CVSのマーチャンダイジングの基本 商品計画の基礎知識 棚割とディスプレイ  |
| 13 | 仕入計画の基礎知識 発注の基本 物流の基礎知識                |
| 14 | 在庫管理の基本 POSシステムの仕組み バーコードの仕組み          |
| 15 | 価格の設定要因と価格政策 売価決定計算法                   |

|                          |                         |                        |
|--------------------------|-------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>   | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>   | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 販売実習等での経験及び様々な販売形態の店舗見学 |                        |
| 使用教材                     | リテールマーケティング テキスト&問題集    |                        |
| 履修にあたっての注意               |                         |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | ハーブと健康 | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 飴谷 有希子 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 生活の中で手に入りやすい20種類のハーブを中心に、ハーブの安全性、有用性、使い方などを学ぶ。また、精油の基礎知識と使用方法について学ぶ。 |
| 到達目標 | ①ハーブや精油を安全に使用するための基礎知識を説明できる。<br>②ハーブやアロマテラピーを生活の中で活用することができる。       |

## 授業計画

|    |   |
|----|---|
| 1  | ハーブ基礎知識（安全に使用するため）、ティーの淹れ方、ハーブ各論（マウブルー）   |
| 2  | ハーブ活用法（コーディアル）、ハーブ各論（エキナセア、エルダーフラワー）      |
| 3  | ハーブ活用法（チンキ剤）、ハーブ各論（カレンデュラ、ハイビスカス）         |
| 4  | ハーブ活用法（スチーム）、ハーブ各論（ジャーマンカモミール、ローズヒップ）     |
| 5  | ハーブ活用法（ハーブパウダー）、ハーブ各論（セージ、ラズベリーリーフ）       |
| 6  | ハーブ活用法（化粧水）、ハーブ各論（セントジョーンズワート、リンデン）       |
| 7  | アロマテラピー基礎知識（安全に使用するため）、ハーブ各論（ダンディライオン）    |
| 8  | アロマテラピー基礎知識（柑橘系精油）、ハーブ各論（ネトル、ローズ）         |
| 9  | アロマテラピー活用法（スプレー、芳香浴）、ハーブ各論（パッションフラワー、ミント） |
| 10 | ハーブ活用法（部分浴）、ハーブ各論（マルベリー、ラベンダー）            |
| 11 | ハーブ活用法（ブレンド）、ハーブ各論（ローズマリー、マテ）             |
| 12 | ハーブ活用法（料理）、ハーブ各論（レモンバーベナ、レモンバーム）          |
| 13 | ハーブや精油を安全に使用するためには                        |
| 14 | ハーブ活用法（浸出油）、ブレンドティー                       |
| 15 | ハーブ活用法（軟膏）、ソフトハーブティー                      |

|                          |  |                        |
|--------------------------|--|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |  | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○                                      | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |  |                        |
| 使用教材                     | 基礎からよくわかるメディカルハーブLESSON 監修 佐々木薫 河出書房新社 |                        |
| 履修にあたっての注意               | アレルギーや、皮膚疾患のある学生は申し出ること                |                        |

|       |       |          |          |
|-------|-------|----------|----------|
| 科目名   | 体育    | 開講時期     | 2年 前期    |
| 担当講師  | 松本 晴美 | 区分       | 実務       |
| 授業の方法 | 実技    | 単位数：授業時数 | 0.5 15時間 |

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 学修内容 | グループ別による選択種目の実施（バレーボール、サッカー、バスケ、テニス等） |
| 到達目標 | 体力向上はもとより、スポーツを通じて円滑なコミュニケーションをはかる    |

授業計画

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | グループ別による選択種目の実施                 |
| 2  | 〃 ※準備体操・整理体操は全員行わせる。            |
| 3  | 〃 ※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。 |
| 4  | 〃 ※選択種目・・・①バスケットボール ②テニス        |
| 5  | 〃 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー           |
| 6  | 〃 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール               |
| 7  | 〃 ⑦バドミントン ⑧その他                  |
| 8  | 〃 ※人数により実施しない種目もある。             |
| 9  | 〃                               |
| 10 | 〃                               |
| 11 | 〃                               |
| 12 | 〃                               |
| 13 | 〃                               |
| 14 | 〃                               |
| 15 | 選択種目の反省と評価（自己評価・相互評価）           |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="checkbox"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |   |
| 使用教材                     |   |
| 履修にあたっての注意               |   |

|       |       |          |          |
|-------|-------|----------|----------|
| 科目名   | 体育    | 開講時期     | 2年 後期    |
| 担当講師  | 松本 晴美 | 区分       | 実務       |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 0.5 15時間 |

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 学修内容 | グループ別による選択種目の実施（バレーボール、サッカー、バスケ、テニス等） |
| 到達目標 | 体力向上はもとより、スポーツを通じて円滑なコミュニケーションをはかる    |

授業計画

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | グループ別による選択種目の実施                 |
| 2  | 〃 ※準備体操・整理体操は全員行わせる。            |
| 3  | 〃 ※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。 |
| 4  | 〃 ※選択種目・・・①バスケットボール ②テニス        |
| 5  | 〃 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー           |
| 6  | 〃 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール               |
| 7  | 〃 ⑦バドミントン ⑧その他                  |
| 8  | 〃 ※人数により実施しない種目もある。             |
| 9  | 〃                               |
| 10 | 〃                               |
| 11 | 〃                               |
| 12 | 〃                               |
| 13 | 〃                               |
| 14 | 〃                               |
| 15 | 選択種目の反省と評価（自己評価・相互評価）           |

|                          |   |                        |
|--------------------------|---|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |   | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○ | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |   |                        |
| 使用教材                     |   |                        |
| 履修にあたっての注意               |   |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 保健体育  | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 松本 晴美 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 「講義」健康づくりのための運動 「実技」グループ別による選択種目の実施<br>(バレーボール、サッカー、バスケット、テニス等) |
| 到達目標 | 健康な日常生活をおくるための運動の重要性を理解し、実技授業で生涯スポーツへの関心と親しみを深める                |

授業計画

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 1  | 実技実施のためのオリエンテーション（授業の説明、注意事項、アンケート） |
| 2  | 「実技」グループ別による選択種目の実施                 |
| 3  | 〃 ※準備体操・整理体操は全員行わせる。                |
| 4  | 〃 ※各種目の準備・片付けは各グループに責任を持って行わせる。     |
| 5  | 〃 ※選択種目・・・①バスケットボール ②テニス            |
| 6  | 〃 ③ウォーキング・ランニング ④サッカー               |
| 7  | 〃 ⑤ソフトボール ⑥バレーボール                   |
| 8  | 〃 ⑦バドミントン ⑧その他                      |
| 9  | 〃 ※人数により実施しない種目もある。                 |
| 10 | 「講義」 健康づくりのための身体活動基準                |
| 11 | 〃 生活習慣病と身体活動                        |
| 12 | 〃 生活習慣病に効果的な運動（ウォーキング）              |
| 13 | 〃 （筋肉強化運動）                          |
| 14 | 〃 ストレッチとセルフマッサージ                    |
| 15 | 〃 まとめ                               |

|                          |   |                        |
|--------------------------|---|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |   | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○ | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |   |                        |
| 使用教材                     |   |                        |
| 履修にあたっての注意               |   |                        |

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | メンタルヘルス | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 壘 亮平    | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義      | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | ストレスとメンタルヘルスの基本、心のセルフケアに関する内容を主とし、社会生活において自分自身のストレスへの対処方から部下への対応についてまで学習する。 |
| 到達目標 | メンタルヘルス不調者が多い現代社会において、自分自身の心のケアとまわりの人への気遣いや対応ができる人材として社会生活を送れるようにする。        |

授業計画

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | テキストの見方、使い方。メンタルヘルスマネジメント検定の概要     |
| 2  | メンタルヘルスケアの重要性、労働安全衛生法と安全配慮義務       |
| 3  | 過重労働による健康被害、ストレスチェック制度、自殺対策基本法等    |
| 4  | ライフサイクルとストレス、メンタルヘルス不調とうつ          |
| 5  | うつ以外のメンタルヘルス不調、心身症と発達障害            |
| 6  | メンタルヘルス不調の現れ方と対処、心の健康問題に対する正しい態度   |
| 7  | 職場環境等の評価と改善。ストレスとなる職場環境への対策や改善への課題 |
| 8  | 従業員のメンタルヘルスケアと管理監督者自身のセルフケア        |
| 9  | セルフケア、ストレスへの気づき方と対処方、カウンセリングの実際    |
| 10 | ストレスによる健康障害のメカニズム                  |
| 11 | 世代別ライフサイクルとストレス                    |
| 12 | 職場復帰支援、プライバシー保護と支援の注意点             |
| 13 | 理解度チェック 模擬問題 解答・解説                 |
| 14 | メンタルヘルスマネジメント検定の過去問 解答・解説          |
| 15 | 今までの学習を踏まえ、ストレス発散法などのプレゼン グループワーク  |

|                          |                             |                        |
|--------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>       | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>       | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                             |                        |
| 使用教材                     | メンタルヘルスマネジメント検定2種3種テキスト&問題集 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                             |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | スキンケア | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 学修内容 | 皮膚の構造を理解し、健康的な肌を維持するための知識を学ぶ。        |
| 到達目標 | 正しいスキンケアの方法を伝え、状態の応じたアドバイスができるようにする。 |

授業計画

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | 皮膚の構造（表皮・真皮・皮下組織）               |
| 2  | 皮膚の役割と機能（表皮・真皮・皮下組織）            |
| 3  | 皮膚の機能（ターンオーバー）                  |
| 4  | 肌トラブル（外因的要因と内因的要因）              |
| 5  | 肌トラブルの対処法・手入れ（紫外線・乾燥）           |
| 6  | 肌トラブル対処法・手入れ（しわ・たるみ・くま等）        |
| 7  | 化粧品                             |
| 8  | スキンケア化粧品の種類・用途・特性               |
| 9  | 化粧品の原料と基礎知識（基材・添加物・訴求成分）        |
| 10 | 化粧品の成り立ち（シーソルト・ドライハーブを用いたバスソルト） |
| 11 | 毛髪・頭皮の構造・ヘアケア化粧品                |
| 12 | ヘアケア化粧品（機能・成分）                  |
| 13 | 化粧品に関するルール                      |
| 14 | 化粧品の成り立ち（モンモリオナイトを用いたクレイパック）    |
| 15 | 化粧品の成り立ち（石けん素地を用いた石けん）          |

|                          |                              |                        |
|--------------------------|------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |                              | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○                            | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 日常生活においても、スキンケアに関する情報に関心を持つ。 |                        |
| 使用教材                     | 日本化粧品検定2.3級対策テキスト            |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。      |                        |

| 令和3年度シラバス（授業計画）医薬学科      |  | ※前期・後期ごとに記入して下さい。 |        |
|--------------------------|--|-------------------|--------|
| 科目名                      | POPコピーライター   | 開講時期              | 2年 後期  |
| 担当講師                     | 善養寺 良子   | 区分                | 実務     |
| 授業の方法                    | 演習   | 単位数：授業時数          | 2 30時間 |
| 学修内容                     | 広告に関する基礎知識を学び、POPの目的とその役割を理解する。また実習を通して、販売促進効果の高いPOP作成技術の習得に挑む。  |                   |        |
| 到達目標                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●広告に対する関心度を高める。</li> <li>●各々の個性を生かしたPOP作成技術を身につける。</li> <li>●社会のあらゆる場面で利用できる情報整理スキルを身につける。</li> </ul> |                   |        |
| 授業計画                     |  |                   |        |
| 1                        | 講義①POP広告とは／自己紹介POP制作演習   |                   |        |
| 2                        | 講義②デザイン文字／デザイン文字演習（細字・太字・丸字）   |                   |        |
| 3                        | デザイン文字演習（細字・太字・丸字）つづき／講義③色彩  |                   |        |
| 4                        | 講義④キャッチコピー／キャッチコピー演習   |                   |        |
| 5                        | 講義⑤イラスト／イラスト演習   |                   |        |
| 6                        | 講義⑥情報の整理／情報整理演習  |                   |        |
| 7                        | 講義⑦レイアウト／レイアウト演習   |                   |        |
| 8                        | 演習：POP制作演習『見本と同じPOP』（ポスカと立体）   |                   |        |
| 9                        | 演習：POP制作演習『バファリンA』（情報整理）   |                   |        |
| 10                       | 演習：POP制作演習『バファリンA』（レイアウト：ポスカで）   |                   |        |
| 11                       | 演習：POP制作演習『キューピーコーワαドリンク』（情報整理・レイアウト：ポスカで）   |                   |        |
| 12                       | 演習：POP制作演習『アレグラFX』（情報整理・レイアウト：ポスカ）   |                   |        |
| 13                       | 演習：POP制作演習『バレンタインデー』（情報整理・レイアウト：立体で）   |                   |        |
| 14                       | 演習：POP制作演習『登録販売者』（情報整理・レイアウト：好きな方法で）   |                   |        |
| 15                       | 演習：POP制作演習『自由課題』（情報整理・レイアウト：好きな方法で）  |                   |        |
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | 筆記試験で評価する<br>○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する  |                   |        |
| 授業時間外の学習                 | 個々でドラッグストアへ行った際にPOP広告をよく観察してみる（強制ではない）   |                   |        |
| 使用教材                     | 【個人】鉛筆orシャーペン・消しゴム・定規・はさみ・のり 【学校】ポスカ・色画用紙・新聞紙  |                   |        |
| 履修にあたって                  |  |                   |        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | 販売実務演習 | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美  | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 演習     | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 健康やセルフケアに関わる多様な商品についてグループディスカッション・発表をし理解をする。校外実務実習にむけ、ドラッグストア業界の専門性を知る。     |
| 到達目標 | 情報を収集・集約し、商品の用途や機能を正しく理解する。グループワークで自らの役割を理解し、協調性・コミュニケーション等の接客に必要な能力を身に付ける。 |

## 授業計画

|    |                                |
|----|--------------------------------|
| 1  | オリエンテーション（グループ学習について・発表の仕方・目的） |
| 2  | 特定保健用食品について（概要/グループワーク）        |
| 3  | 特定保健用食品について（発表/ディスカッション）       |
| 4  | 病者用食品について（概要/グループワーク）          |
| 5  | 病者用食品について（発表/ディスカッション）         |
| 6  | 機能性表示食品について（概要/グループワーク）        |
| 7  | 機能性表示食品について（発表/ディスカッション）       |
| 8  | 栄養機能食品について（概要/グループワーク）         |
| 9  | 栄養機能食品について（発表/ディスカッション）        |
| 10 | アイケア商品について（概要/グループワーク）         |
| 11 | アイケア商品について（発表/ディスカッション）        |
| 12 | オーラルケア商品について（概要/グループワーク）       |
| 13 | オーラルケア商品について（発表/ディスカッション）      |
| 14 | 実技試験                           |
| 15 | 校外実務実習の事前指導                    |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> 筆記試験で評価する           |
|                          | <input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。                    |
| 使用教材                     | プリント   |
| 履修にあたっての注意               | グループ学習では、協調性のある言動を心掛ける。                      |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 接客英語  | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 萱森 公子 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 基本的な接客業のフレーズや、薬の名前、体調等英語で理解できるよう学修する                        |
| 到達目標 | 薬局で海外からのお客様とコミュニケーションが取れるようにリスニングやスピーキングができる力を身に付けることを目標とする |

授業計画

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 1  | 来店したお客様を迎える                   |
| 2  | よく言うひとこと                      |
| 3  | 聞き取れない、わからない                  |
| 4  | レジに案内する                       |
| 5  | 金額を伝える、支払い方法                  |
| 6  | お金を受け取る、渡す、クレジットカード           |
| 7  | ポイントカード、スタンプカード、レシート、領収書を発行する |
| 8  | 電話対応をする                       |
| 9  | お客様を見送る                       |
| 10 | 忘れ物の対応をする                     |
| 11 | 営業日、営業時間を伝える                  |
| 12 | 薬の種類                          |
| 13 | ドラッグストア、薬局                    |
| 14 | 病因、クリニック、体調                   |
| 15 | とっさの対応                        |

|                          |                       |                        |
|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                       |                        |
| 使用教材                     | みんなの接客英語：アルク          |                        |
| 履修にあたっての注意               |                       |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 接客中国語 | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 張 渭涛  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | この講義は医薬品販売と薬剤師調剤における「医薬接客中国語」を日本語で教授して習う授業である。医薬関係の現場ニーズに基づきコミュニケーション情景の形にして中国語発音と文法概説を始め、薬局と病院での主な実用表現を集中的に学び習う。 |
| 到達目標 | 十五回の内に中国語の発音を覚え基本文法を理解する上に、薬局と病院でのコミュニケーションにおける日常表現を身に付けることを目指す。  |

授業計画

|    |   |
|----|---|
| 1  | 中国語の発音Ⅰ：中国語発音の特徴、声調と母音、基本語順、日常会話、医薬表現   |
| 2  | 中国語の発音Ⅱ：声調と母音の復習、子音と鼻母音、基本語順、日常会話、医薬表現  |
| 3  | 中国語の発音Ⅲ：子音と鼻母音の復習、音節と発音ルール、品詞と語順、会話、表現  |
| 4  | 中国語の発音Ⅳ：総復習、発音テスト、基本語順と品詞の復習、会話、表現、練習   |
| 5  | 中国語の基本文法：簡体字、品詞と語順、基本文型、主要文法、会話、表現、練習   |
| 6  | 薬局表現1：受付対応と説明文書カバー、効果・諸注意、応用会話1、文法1、練習  |
| 7  | 薬局表現2：復習、飲み薬と水薬、嗽薬、貼り薬、応用会話2、文法2、練習     |
| 8  | 薬局表現3：復習、塗り薬、スプレー薬、坐薬、点眼薬、応用会話3、文法3、練習  |
| 9  | 薬局表現4：点耳薬、点鼻薬、頓服薬、応用会話4、文法4、練習、薬局表現の総復習 |
| 10 | 病院表現1：復習、病院の受付、外来、会計、応用会話5、文法5、文型1、練習   |
| 11 | 病院表現2：復習、薬局、入院、朝の回診、人体の名前、応用会話6、文型2、練習  |
| 12 | 病院表現3：復習、チェックリスト、数の数え方、応用会話7、文型3、練習     |
| 13 | 病院表現4：時間とその他、応用会話8、文型4、練習、病院表現の総復習、練習   |
| 14 | まとめ：薬局と病院の総復習、文法と文型の総復習、期末試験の説明、応用会話9   |
| 15 | 試験と総評：試験総評、薬局病院表現の質疑回答、文法文型の質疑回答、自由交流   |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | 筆記試験で評価する                                     |
|                          | ○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する                      |
| 授業時間外の学習                 | 中国語ウィーチャット（WeChat）でオンライン質問と回答、自由交流。           |
| 使用教材                     | 授業中に配布。                                       |
| 履修にあたっての注意               | 15回集中的な実用語学の講義のため、諦めずに毎日の内容を繰り返して覚える工夫が必要となる。 |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 医薬品概論 | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 磯野 淳一 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | ①医薬品、副作用、情報の入手と提供の概要 ②医薬品の効果、副作用に影響を与える要因<br>③適切な医薬品選択と受診勧奨の概要 ④薬害の歴史  |
| 到達目標 | ①医薬品の本質、効き目や安全性に影響を与える要因等について理解する ②購入者等から医薬品を使用しても症状が改善しないなどの相談があった場合には、医療機関の受診を勧奨するなど、適切な助言ができる<br>③薬害の歴史を理解し、医薬品の本質を踏まえた適切な販売等に努めることが出来る |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | 適切な情報提供を担うために 登録販売業者とは   |
| 2  | I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 クスリとは 薬物の体内動態（薬動力学）を学ぶ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 医薬品のリスク評価 3) 健康食品 セルフメディケーション                                  |
| 3  | II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用   |
| 4  | 3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ 抗ヒスタミン薬、アルコールと薬の関係 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者  |
| 5  | 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 d)母乳を与える女性（授乳婦）e)医療機関で治療を受けている人等  |
| 6  | 5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質  |
| 7  | III適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション<br>2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方<br>2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟 |
| 8  | 2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 b)スモン訴訟 c)HIV訴訟 d)CJD訴訟  |
| 9  | 適切な情報提供を担うために 登録販売業者とは 登録販売者と薬剤師の違い I 医薬品概論 1) 医薬品の本質<br>I 医薬品概論 1) 医薬品の本質 処方薬と市販薬の違い  |
| 10 | OTC医薬品とは スイッチOTC医薬品とは セルフメディケーション<br>2) 医薬品のリスク評価 セルフメディケーション この薬、たくさん飲めば  |
| 11 | II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 1) 副作用 2) 医薬品の不適正な使用 3) 他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせ アルコールと薬の関係  |
| 12 | II 医薬品の効き目や安全性に影響を与える因子 4) 小児、高齢者等への配慮 a)小児 b) 高齢者 c)妊婦又は妊娠していると思われる女性 妊婦が避けるべき成分 d)母乳を与える女性（授乳婦）  |
| 13 | 5) プラセボ効果 6) 医薬品の品質  |
| 14 | III適切な医薬品選択と受診勧奨 1) 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲 セルフメディケーション<br>2) 販売時のコミュニケーション IV薬害の歴史 1) 医薬品による副作用等に対する基本的考え方<br>2) 医薬品による副作用等にかかる主な訴訟 a)サリドマイド訴訟 |
| 15 | 販売時のコミュニケーション 第1章 医薬品概論 の振り返り  |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | 筆記試験で評価する                                     |
|                          | ○ 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する                      |
| 授業時間外の学習                 |   |
| 使用教材                     | 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻 およびpower point資料 |
| 履修にあたっての注意               |   |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 人体学   | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 野村 恵子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 脳や神経系、皮膚・骨・関節・筋肉などの運動器官、目・鼻・耳などの感覚器官、口腔・胃などの内臓器官について構造と働きを理解する。 |
| 到達目標 | 講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。                                    |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | <b>はじめに</b> 年間の授業計画について <b>生体の構成・細胞について</b>      |
| 2  | <b>I 人体の構造と働き 4 脳や神経系の働き</b> 1) 中枢神経系            |
| 3  | 2) 末梢神経系   |
| 4  | <神経組織> 1.神経細胞、2.神経線維、3.シナプス、4.神経による情報伝達、5.神経伝達物質 |
| 5  | <b>3 皮膚、骨・関節、筋肉などの運動器官</b> 1) 外皮系                |
| 6  | 2) 骨格系   |
| 7  | 2) 骨格系,関節  |
| 8  | 3) 筋組織   |
| 9  | <b>2.目、鼻、耳などの感覚器官</b> 1) 目 (a)眼球                 |
| 10 | (b)眼瞼、結膜、涙器、眼筋、2) 鼻 (a)鼻腔 (b)副鼻腔                 |
| 11 | 3) 耳 (a)外耳 (b)中耳、(c)内耳                           |
| 12 | <b>1.胃・腸、肝臓、肺、心臓、腎臓などの内臓器官</b> 1) 消化器系 (a)口腔 ①歯  |
| 13 | ②舌 ③唾液腺 (b)咽頭、食道                                 |
| 14 | (c)胃   |
| 15 | 前期試験答案返却、解説等、(d)小腸                               |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |  |
| 使用教材                     | 登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント        |
| 履修にあたっての注意               |  |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 人体学   | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 野村 恵子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 小腸、膵臓、胆嚢、肝臓、大腸などの内臓器官、呼吸器系、循環器系、泌尿器系および内分泌系 について構造と働きを理解する。 |
| 到達目標 | 講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。                                |

授業計画

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 1  | (d)小腸、(e)膵臓                   |
| 2  | (f)胆嚢、肝臓、                     |
| 3  | (g)大腸                         |
| 4  | (h)肛門 2) 呼吸器系 (a)鼻腔           |
| 5  | (b)咽頭(c)喉頭、気管、気管支、(d)肺        |
| 6  | 3) 循環器系 (a)心臓 、(b)血管系（動脈）     |
| 7  | (b)血管系（静脈、毛細血管）、(c)血液 ①血漿     |
| 8  | ②血球（赤血球、白血球、血小板）、             |
| 9  | (d)脾臓、(e)リンパ系（リンパ液、リンパ管、リンパ節） |
| 10 | 4) 泌尿器系 (a)腎臓                 |
| 11 | 副腎、ホルモン                       |
| 12 | (b)尿路（膀胱、尿道）                  |
| 13 | まとめ                           |
| 14 | 後期試験答案返却、解説等                  |
| 15 | 性ホルモンについて                     |

|                          |                                       |                        |
|--------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>                 | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>                 | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                                       |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント |                        |
| 履修にあたっての注意               |                                       |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | 薬剤学    | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 大西 可奈子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | ①様々な薬の剤型と使用方法を学ぶ。②薬の作用、薬が体の中に入る仕組み、薬物動態を学ぶ<br>③副作用を正しく理解する。薬により起こる副作用の仕組み、症状を学び、早期発見早期対応できる知識を習得する。  |
| 到達目標 | ①様々なくすりの剤型と使用方法を理解することで、購入者等に適切な販売等に努めることができる。②薬の違いによる薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）の違いを理解する。③副作用の種類を正しく理解できる。症状からみた主な副作用の特徴を正しく理解し、早期発見早期対応のための知識を身につける。 |

授業計画

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | 登録販売者の役割。医薬品の基本的知識を学ぶ。             |
| 2  | 医薬品の基本的知識・定義と分類・リスク（総論）            |
| 3  | 薬が働く仕組み 全身作用と局所作用                  |
| 4  | 薬が働く仕組み 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）          |
| 5  | 薬が働く仕組み 薬の用量と作用の関係（血中濃度曲線、用量反応曲線）  |
| 6  | 薬が働く仕組み 標的分子（受容体、酵素、トランスポーター）      |
| 7  | 薬が働く仕組み 医薬品の剤形と特徴                  |
| 8  | 症状から見た主な副作用 総論（全身性作用・精神神経系作用・局所作用） |
| 9  | 症状から見た主な副作用 各論【過敏症・皮膚】             |
| 10 | 症状から見た主な副作用 各論【肝臓・内分泌・血液】          |
| 11 | 症状から見た主な副作用 各論【精神・神経・消化器】          |
| 12 | 症状から見た主な副作用 各論【呼吸器・循環器】            |
| 13 | 症状から見た主な副作用 各論【腎臓・泌尿器・感覚器】         |
| 14 | 症状から見た主な副作用 薬の作用、副作用発現に影響する因子      |
| 15 | 復習と試験対策                            |

|                          |   |                        |
|--------------------------|---|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>                   | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>                   | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |   |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト（上巻）都道府県登録販売者試験過去問題集 |                        |
| 履修にあたっての注意               |   |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 薬物学①  | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 小倉 由子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 6 90時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 様々な疾患を通してヒトの身体の仕組みと機能について理解し、医療に携わるものとして、必要な医薬品や漢方薬に関する薬の作用や効能などの基礎知識を養うと共に、適切なアドバイスができる基礎知識を身に付ける。                           |
| 到達目標 | 疾患を通して、身体の各器官がどのような仕組みで働いているかを学び、薬を通して薬が及ぼす作用や副作用・相互作用などについて理解する。また、購買者からの情報を正しく理解するために薬や基礎的な疾患について学び、登録販売者の業務に直接役立つ知識を身につける。 |

授業計画

|    |   |
|----|---|
| 1  | 精神神経に作用する薬【総論】（風邪の諸症状と風邪薬の作用・主な配合成分と漢方処方製剤） |
| 2  | 精神神経に作用する薬（風邪薬の副作用・相互作用）                    |
| 3  | 自律神経用薬（発熱と解熱の仕組み・解熱鎮痛薬の作用・主な配合成分と漢方処方製剤）    |
| 4  | 自律神経用薬（解熱鎮痛薬の副作用・相互作用）・問題の実施と解答・解説          |
| 5  | 眠気を促す薬・眠気を防ぐ薬（眠気の仕組み・主な配合成分と漢方処方製剤）         |
| 6  | 鎮暈薬（乗り物酔い防止薬）（乗り物酔い・めまいの仕組み・鎮暈薬の作用）         |
| 7  | 小児の疳（小児鎮静薬）・問題の実施と解答・解説                     |
| 8  | 呼吸器に作用する薬（咳や痰が生じる仕組み・鎮咳去痰薬の作用・主な配合成分）       |
| 9  | 呼吸器に作用する薬（鎮咳去痰薬・口腔咽喉薬・うがい薬）・問題の実施と解答・解説     |
| 10 | 胃の薬（胃・腸の仕組み・制酸薬・健胃薬・消化薬の作用）                 |
| 11 | 腸の薬（整腸薬・下痢の仕組みと止瀉薬の作用）                      |
| 12 | 腸の薬（便秘の仕組みと瀉下薬の作用）・問題の実施と解答・解説              |
| 13 | 胃腸鎮痛鎮痙薬（痛みの仕組みと抑える作用・代表的な鎮痙成分）              |
| 14 | その他の消化器用薬（浣腸薬〈注入薬・坐薬〉・駆虫薬〈回虫・蟯虫〉）           |
| 15 | 消化器用薬に関する諸注意（使用上の注意・販売上の注意）・問題の実施と解答・解説     |

|                          |  |                        |
|--------------------------|--|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>                                      | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>                                      | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 特になし   |                        |
| 使用教材                     | 学生のための漢方医学テキスト：日本東洋医学会学術教育委員会<br>都道府県登録販売者過去問題集：日本薬業研修センター |                        |
| 履修にあたっての注意               |  |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 薬物学①  | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 小倉 由子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 3 45時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 様々な疾患を通してヒトの身体の仕組みと機能について理解し、医療に携わるものとして、必要な医薬品や漢方薬に関する薬の作用や効能などの基礎知識を養うと共に、適切なアドバイスができる基礎知識を身に付ける。                           |
| 到達目標 | 疾患を通して、身体の各器官がどのような仕組みで働いているかを学び、薬を通して薬が及ぼす作用や副作用・相互作用などについて理解する。また、購買者からの情報を正しく理解するために薬や基礎的な疾患について学び、登録販売者の業務に直接役立つ知識を身につける。 |

授業計画

|    |   |
|----|---|
| 1  | 心臓等の器官や血液に作用する薬（心臓の働きと動悸、息切れ等を生じる原因と病気）       |
| 2  | 強心薬の作用と主な生薬成分・漢方処方製剤・相互作用及び受診勧奨               |
| 3  | 高コレステロール改善薬（血中コレステロールと高コレステロール改善成分の作用）        |
| 4  | 高コレステロール改善薬（代表的な配合成分、生活習慣改善へのアドバイス・受診勧奨）      |
| 5  | 貧血用薬（貧血の種類と症状、鉄欠乏性貧血の鉄製剤の働き・配合成分・副作用）         |
| 6  | その他の循環器用薬（代表的な配合成分・漢方処方製剤）                    |
| 7  | 痔の薬（痔の発症と症状及び対処法、痔疾用薬〈内服薬と外用薬〉の働き、配合成分）       |
| 8  | その他の泌尿器用薬（主な症状・主な代表的な配合成分・漢方処方製剤）             |
| 9  | 婦人薬（適応対象となる体質・症状、主な配合成分〈ホルモン成分と生薬成分〉）         |
| 10 | 婦人薬（主な配合成分〈漢方処方製剤〉・副作用・相互作用・受診勧奨）             |
| 11 | アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む）（アレルギーが起こる仕組み・アレルギー症状を抑える薬） |
| 12 | アレルギー用薬（鼻炎用点鼻薬）（病気と鼻炎症状・配合成分・相互作用）            |
| 13 | 眼科用薬（目の仕組みと目薬・目の症状を改善する配合成分・点眼薬の使い方と注意事項）     |
| 14 | 皮膚に用いる薬（殺菌消毒成分・痒み・晴れ・痛みを抑える成分）                |
| 15 | 皮膚に用いる薬（保湿配合成分・抗菌作用成分・頭皮・毛根に作用する配合成分）         |

|                          |  |                        |
|--------------------------|--|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | ○  | 筆記試験で評価する              |
|                          |  | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 特になし   |                        |
| 使用教材                     | 基礎からの漢方薬: 薬事日報社、西洋医がすすめるサイエンス漢方: SB新書<br>都道府県登録販売者過去問題集: 日本薬業研修センター<br>都道府県登録販売者過去問題 |                        |
| 履修にあたっての注意               |  |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 薬物学②  | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 野村 恵子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 漢方の特徴・基本的な考え方、代表的な漢方処方製剤、適応となる症状・体質、代表的な生薬成分、歯痛・歯槽膿漏薬および禁煙補助剤並びに滋養強壮保健薬（ビタミン成分）の主な配合成分、それら薬による主な副作用、相互作用、受診勧奨すべき状況などについて理解する。 |
| 到達目標 | 講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。  |

授業計画

|    |   |
|----|---|
| 1  | <b>はじめに</b> 年間の授業計画について ; <b>XIV漢方処方製剤・生薬製剤 1漢方処方製剤</b><br>1) 漢方の特徴・基本的な考え方- 中医学の概要 - |
| 2  | 2) 代表的な漢方処方製剤、適用となる症状・体質、主な副作用  |
| 3  | 3) 相互作用、受診勧奨、 <b>2その他の生薬製剤</b> 1) 代表的な生薬成分  |
| 4  | 1) 代表的な生薬成分、主な副作用 (a)~(h) 2) 相互作用、受診勧奨  |
| 5  | <b>XI歯や口中に用いる薬 1歯痛・歯槽膿漏用薬</b> 1) 代表的な配合成分   |
| 6  | 2) 相互作用、受診勧奨  |
| 7  | <b>2口内炎用薬(外用薬)</b> 1) 代表的な配合成分、主な副作用  |
| 8  | <b>XII禁煙補助剤</b> 1) ニコチンに関する基礎知識   |
| 9  | 2) 主な副作用、相互作用、禁煙達成へのアドバイス・受診勧奨  |
| 10 | <b>XIII滋養強壮保健薬</b> 1) 医薬品として扱われる保健薬 2) ビタミン、カルシウム、アミノ酸等の働き (a)ビタミン成分 ①ビタミンA②ビタミンD     |
| 11 | ③ビタミンE ④ビタミンB1 、ビタミンK   |
| 12 | ⑤ビタミンB2 ⑥ビタミンB6   |
| 13 | ⑦ビタミンB12  |
| 14 | ⑧ビタミンC  |
| 15 | 前期試験答案返却、解説等、 ⑨その他(ナイアシン、ビタミンB5)  |

|                          |                                       |                        |
|--------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | ○                                     | 筆記試験で評価する              |
|                          |                                       | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                                       |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント |                        |
| 履修にあたっての注意               |                                       |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 薬物学②  | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 野村 恵子 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 滋養強壮保健薬（カルシウム成分、アミノ酸成分）、公衆衛生用薬、一般用検査薬の主な配合成分、それら薬による主な副作用、相互作用、受診勧奨すべき状況などについて理解する。 |
| 到達目標 | 講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。  |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | <b>XIII 滋養強壮保健薬</b> ⑨その他(ビオチン、葉酸)、(b)カルシウム成分   |
| 2  | (c)アミノ酸成分①システイン ②アミノエチルスルホン酸 ③アスパラギン酸ナトリウム、(d)その他の成分                                   |
| 3  | 3) 代表的な配合生薬等、主な副作用 ・ 生薬成分(a)～(f) ・ 漢方処方製剤 4) 相互作用、受診勧奨                                 |
| 4  | <b>XV 公衆衛生用薬</b> 1)消毒薬 1) 感染症の防止と消毒薬、2) 代表的な殺菌消毒成分、取り扱い上の注意等 (a)手指・皮膚、器具等の殺菌・消毒に使用する成分 |
| 5  | (b)専ら器具、設備等の殺菌・消毒に用いられる成分、   |
| 6  | 2 殺虫剤・忌避剤 1) 衛生害虫の種類と防除 (a)ハエ (b)蚊、(c)ゴキブリ   |
| 7  | (d)シラミ (e)トコジラミ (f)ノミ (g)イエダニ、ツツガムシ (h)屋内塵性ダニ  |
| 8  | 2) 代表的な配合成分・用法、誤用・事故等への対処 (a)有機リン酸系殺虫成分、(b)ピレスロイド系殺虫成分 (c) カーバメイト系殺虫成分                 |
| 9  | (d)有機塩素系殺虫成分 (e)昆虫成長阻害成分 (f)その他の成分 ①殺虫補助成分 ②忌避成分                                       |
| 10 | ●主な剤形、用法 (a)噴霧剤 (b)燻蒸剤 (c)毒餌剤 (d)蒸散剤 (e)粉剤・粒剤 (f)乳剤・水和剤 (g)油剤 【一般的な留意事項】               |
| 11 | <b>XVI 一般用検査薬</b> 1) 尿糖・尿蛋白検査薬 1) 尿中の糖・蛋白値に異常を生じる要因                                    |
| 12 | 2) 検査結果に影響を与える要因、検査結果の判断、受診勧奨 2) 妊娠検査薬 1) 妊娠の早期発見の意義                                   |
| 13 | 2) 検査結果に影響を与える要因、検査結果の判断、受診勧奨  |
| 14 | まとめ  |
| 15 | 後期試験答案返却、解説等、 感染症について  |

|                          |   |                                       |
|--------------------------|---|---------------------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | ○ | 筆記試験で評価する                             |
|                          |   | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する                |
| 授業時間外の学習                 |   |                                       |
| 使用教材                     |   | 登録販売者試験受験対策共通テキスト(日本薬業研修センター) およびプリント |
| 履修にあたっての注意               |   |                                       |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 薬事法規  | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 真砂 秀夫 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 医薬品・医療機器等法及び関係法規制度                                  |
| 到達目標 | 医薬品等に関する法律、法令、制度を理解し、登録販売者として、医薬品等の販売、授与にあたり法令を遵守する |

授業計画

|    |                             |
|----|-----------------------------|
| 1  | 医薬品・医療機器等法の目的（第一条）、登録販売者の責務 |
| 2  | 医薬品の定義                      |
| 3  | 不良医薬品、不正表示医薬品               |
| 4  | 要指導医薬品                      |
| 5  | 一般用医薬品、医療用医薬品               |
| 6  | 毒薬、劇薬、生物由来製品                |
| 7  | 一般用医薬品のリスク区分                |
| 8  | 容器・外箱等への記載事項、記載禁止事項         |
| 9  | 医薬部外品                       |
| 10 | 化粧品                         |
| 11 | 保健機能食品等の食品                  |
| 12 | 医薬品の販売業の許可（1）許可の種類と許可行為の範囲  |
| 13 | 医薬品の販売業の許可（2）薬局、薬剤師不在時間     |
| 14 | 医薬品の販売業の許可（3）店舗販売業          |
| 15 | 医薬品の販売業の許可（4）配置販売業          |

|                          |                     |                        |
|--------------------------|---------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |                     | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○                   | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                     |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト |                        |
| 履修にあたっての注意               |                     |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 薬事法規  | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 真砂 秀夫 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 医薬品・医療機器等法及び関係法規制度                                  |
| 到達目標 | 医薬品等に関する法律、法令、制度を理解し、登録販売者として、医薬品等の販売、授与にあたり法令を遵守する |

授業計画

|    |                        |
|----|------------------------|
| 1  | リスク区分に応じた販売従事者等        |
| 2  | リスク区分に応じた情報提供（1）要指導医薬品 |
| 3  | リスク区分に応じた情報提供（2）一般用医薬品 |
| 4  | リスク区分に応じた陳列            |
| 5  | 薬局又は店舗における掲示           |
| 6  | 特定販売                   |
| 7  | その他の遵守事項等              |
| 8  | 適正な販売広告                |
| 9  | 医薬品等適正広告基準             |
| 10 | 不適正な販売方法               |
| 11 | 行政庁の監視指導               |
| 12 | 行政庁による処分（1）改善命令等       |
| 13 | 行政庁による処分（2）業務停止命令等     |
| 14 | 行政庁による処分（3）廃棄・回収命令等    |
| 15 | 苦情相談窓口                 |

|                          |                          |                        |
|--------------------------|--------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/> | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="checkbox"/> | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                          |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト      |                        |
| 履修にあたっての注意               |                          |                        |

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | 医薬品適正安全 | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 磯野 淳一   | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義      | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | ①医薬品の適正使用のために必要な基本的情報について知る ②副作用情報収集制度や評価・対応する制度を知り、副作用の報告方法を学ぶ ③副作用被害者に救済制度を紹介できるように、制度の内容や手続き方法を学ぶ ④医薬品を安全に使用するために具体的報告事例を学ぶ   |
| 到達目標 | ①添付文書、製品表示等について記載内容を的確に理解し、購入者に適切な情報提供や相談対応ができる ②副作用報告・被害救済制度に関する基本的知識を身につける ③副作用等に関する厚生労働大臣報告が行える ④実際に副作用被害者に被害救済制度について紹介、説明できる |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | 登録販売者とは I 医薬品の適正使用情報 添付文書はどこにある<br>一般用医薬品の添付文書 添付文書の読み方 一般用医薬品のリスク区分                                 |
| 2  | 使用上の注意 してはいけないこと 医療用医薬品の添付文書に記載されている基本用語<br>添付文書の読み方 相談すること その他の注意                                   |
| 3  | 添付文書の読み方 製品表示の読み方 安全性情報など、その他の情報   |
| 4  | II 医薬品の安全対策 1. 医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置 2. 医薬品による副作用が<br>疑われる場合の報告の仕方                                    |
| 5  | III 医薬品の副作用等による健康被害の救済 1) 医薬品副作用被害救済制度 2) 医薬品副作用被害<br>救済制度等への案内・窓口紹介                                 |
| 6  | IV 一般用医薬品に関する主な安全対策 a) アンプル入りかぜ薬 b) 小柴胡湯による間質性肺炎<br>c) 一般用かぜ薬による間質性肺炎 d) PPA含有医薬品 V 医薬品の適正使用のための啓発活動 |
| 7  | I 添付文書 「してはいけないこと」「相談すること」   |
| 8  | I 添付文書 「してはいけないこと」 ピリン系の薬剤とは 止瀉剤一覧・作用機序  |
| 9  | I 添付文書 「してはいけないこと」 外用鎮痛消炎剤 特に湿布薬について メトヘモグロ<br>ビン血症に関連して   |
| 10 | I 添付文書 「してはいけないこと」 基礎疾患との組み合わせ 成分、牛乳によるアレルギー<br>に関連して  |
| 11 | I 添付文書 「してはいけないこと」 授乳中に避ける理由について 妊娠中に避けるべき理由<br>について   |
| 12 | I 添付文書 「してはいけないこと」 15歳未満に使用できない理由に関連して 乗物、機<br>械の運転を避けるべき医薬品について                                     |
| 13 | I 添付文書 「してはいけないこと」 出産予定12週以内の妊婦に避ける医薬品に関連して  |
| 14 | I 添付文書 「してはいけないこと」 相談に対する登録販売者の適切な説明に関して   |
| 15 | 第5章 医薬品の適正使用・安全対策 の振り返り<br>新型コロナウイルス感染症対策と、登録販売者の関わりについて   |

|                          |                              |                        |
|--------------------------|------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) |                              | 筆記試験で評価する              |
|                          | ○                            | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                              |                        |
| 使用教材                     | 登録販売者試験 受験対策 共通テキスト [改訂版] 上巻 | およびpower point資料       |
| 履修にあたっての注意               |                              |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 医薬品論  | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 野村 恵子 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 微生物および抗菌薬・抗ウイルス薬の種類と作用機序について理解する。頭痛を伴う病気、高血圧を伴う病気の症状と病態・治療方法について各々理解する。 |
| 到達目標 | 講義内容の6割以上を理解し、他者に説明できるようにする。  |

授業計画

|    |  |
|----|--|
| 1  | 微生物について、 抗菌薬（1.細胞壁合成阻害薬 1-1.βラクム系薬 1) ペニシリン系、2) セフェム系、3) カバペニム系、4) モノバクタム系、1-2.グリコペプチド系薬、1-3.ホスホマイシン）          |
| 2  | 抗菌薬（2.蛋白合成阻害薬 2-1.アミノグリコ系薬、2-2.マクロライド系、2-3.テトラサイクリン系、2-4.リソマイシン系、2-5.ストレプトグラミン系、2-6.オキサリジノン系薬、2-7.クロラムフェニコール系） |
| 3  | 抗菌薬（3.DNA・RNA合成阻害薬 3-1.キノロン系薬、3-2.サルファ剤、3-3.S-T合剤）   |
| 4  | 抗菌薬（4.細胞膜障害薬 4-1.ポリヘキサリン系薬、4-2.タフトマイシン）、抗ウイルス薬、抗真菌薬、薬物間相互作用  |
| 5  | 抗菌薬と食品の相互作用、処方比較（抗菌薬）、医薬品選択のポイント   |
| 6  | 症状と病態（頭痛を伴う病気）   |
| 7  | 症状と病態（頭痛を伴う病気）   |
| 8  | 症状と病態（頭痛を伴う病気）   |
| 9  | 症状と病態（頭痛を伴う病気）   |
| 10 | 症状と病態（頭痛を伴う病気）   |
| 11 | 症状と病態（高血圧を伴う病気）  |
| 12 | 症状と病態（高血圧を伴う病気）  |
| 13 | 症状と病態（高血圧を伴う病気）  |
| 14 | いままでの復習  |
| 15 | 後期試験答案返却、解説等   |

|                          |                        |                        |
|--------------------------|------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>  | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>  | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                        |                        |
| 使用教材                     | 「家庭の医学」第3版（成美堂出版）、プリント |                        |
| 履修にあたっての注意               |                        |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | 医薬品販売論 | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 壘 亮平   | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 一般用医薬品の販売接客事例などから、症状別に販売接客方法を学習する。また、医薬品以外からの対応や受診勧奨の必要性なども併せて学習する。      |
| 到達目標 | 登録販売者として現場に立ったとき、お客様に適切な対応ができるように自信をつける。また、必要に応じて複数の対応方法を提案できる登録販売者をめざす。 |

授業計画

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | 医薬品販売の基礎 挨拶 表情 声掛けのタイミング 声掛けの有無 |
| 2  | 医薬品販売の基礎 医薬品接客において必要な質問         |
| 3  | 市販薬を扱う店舗で受ける相談や特徴               |
| 4  | 接客に必要な質問する力、添付文書の読み方            |
| 5  | 総合感冒薬 風邪、発熱、咳や痰、のどの痛み           |
| 6  | 解熱鎮痛薬 頭痛、歯痛、生理痛、筋肉痛             |
| 7  | 鼻炎薬 鼻水、くしゃみ、鼻づまり                |
| 8  | 乗り物酔い予防薬                        |
| 9  | 睡眠改善薬、眠気防止薬                     |
| 10 | 胃腸薬 制酸剤、胃粘膜保護剤、消化剤、総合胃腸薬、漢方薬    |
| 11 | 胃腸薬 下痢、便秘への対応について 止瀉薬、便秘薬、整腸薬   |
| 12 | 目薬 疲れ目、充血、かすみ目、かゆみ              |
| 13 | 外用薬 肩こり、筋肉痛、関節痛                 |
| 14 | 外用薬 湿疹、皮膚炎（日焼け、やけどなど）、水虫        |
| 15 | 痔、更年期障害、尿のトラブル                  |

|                          |                               |                        |
|--------------------------|-------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>         | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>         | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                               |                        |
| 使用教材                     | 現場で使える新人登録販売者便利帖 症状から選ぶOTC医薬品 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                               |                        |

|       |        |          |          |
|-------|--------|----------|----------|
| 科目名   | 試験対策ゼミ | 開講時期     | 2年 前期    |
| 担当講師  |        | 区分       | 一般       |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 15 225時間 |

|      |                              |
|------|------------------------------|
| 学修内容 | 登録販売者試験の過去問題の演習。傾向と対策、問題の解説。 |
| 到達目標 | 登録販売者試験の合格を目標とする。            |

授業計画

|    |                    |
|----|--------------------|
| 1  | 別紙 予定表に基づき過去問題の演習。 |
| 2  | 章ごとに問題の解説。         |
| 3  | 第1・2・4章：野村恵子       |
| 4  | 第5章：真砂秀夫           |
| 5  | 第3章：壘亮平・齋藤絵美       |
| 6  |                    |
| 7  |                    |
| 8  |                    |
| 9  |                    |
| 10 |                    |
| 11 |                    |
| 12 |                    |
| 13 |                    |
| 14 |                    |
| 15 |                    |

|                          |                                   |                        |
|--------------------------|-----------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="checkbox"/>          | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>             | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 不正解の問題を復習をする。                     |                        |
| 使用教材                     | 過去問題プリント/登録販売者試験 受験対策共通テキスト 上巻・下巻 |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。           |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 漢方概論  | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 前田 恵里 | 区分       | 実務     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 漢方医学の歴史、漢方医学の基礎概念（陰陽、虚実、表裏、寒熱、気血水、六病位、五臓）、漢方の診察法（望診、聞診、問診、切診）、漢方医学の診断（証）、漢方処方製剤を構成する生薬個々の薬理作用や副作用、さらに漢方製剤の薬効や副作用の知識を身につける。また、これらの知識を漢方処方製剤及び生薬製剤販売（薬剤の選択と服薬指導）へ応用する力を修得する。 |
| 到達目標 | 一般用医薬品で使用されている漢方処方製剤や生薬について理解するため、漢方医学の考え方や、代表的な漢方処方製剤の適応についての基礎知識を修得する。また、購入者のニーズに即した漢方処方製剤や生薬を説明、紹介する上での知識を身につける。  |

授業計画

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 1  | 漢方総論①：漢方薬の概要、漢方医学の歴史                |
| 2  | 漢方総論②：診察法（望診、聞診、問診、切診）、証のとらえ方       |
| 3  | 漢方総論③：病態と治療（陰陽、虚実、表裏、寒熱、気血水、六病位、五臓） |
| 4  | 生薬製剤：代表的な生薬の生薬成分と主な副作用              |
| 5  | 漢方処方各論①：方剤学（桂枝湯類、麻黄剤、柴胡剤）           |
| 6  | 漢方処方各論②：方剤学（附子剤、人参湯類、地黄剤、石膏剤）       |
| 7  | 漢方処方各論③：方剤学（気剤、駆瘀血剤、利水剤）            |
| 8  | 漢方薬の服薬指導①（剤型、服用量、服薬時間、保管方法）         |
| 9  | 漢方薬の服薬指導②（代表的な副作用と相互作用）             |
| 10 | 漢方薬の臨床応用①：適切な薬剤の選択（感冒・呼吸器）          |
| 11 | 漢方薬の臨床応用②：適切な薬剤の選択（胃腸障害）            |
| 12 | 漢方薬の臨床応用③：適切な薬剤の選択（婦人科）             |
| 13 | 漢方薬の臨床応用④：適切な薬剤の選択（泌尿器）             |
| 14 | 漢方薬の臨床応用⑤：薬剤の選択（アレルギー・皮膚）           |
| 15 | 総合演習                                |

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 配布資料を活用し、授業内容の要点を復習して理解する                    |
| 使用教材                     | 現代医療における漢方薬改訂第3版：南江堂                         |
| 履修にあたっての注意               |  |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 人間栄養学 | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 宮田 祥子 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 糖質・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル・水の構造と働きについて理解し、栄養と健康の関わりについて学ぶ。日本人の食事摂取基準(2020年版)を理解する |
| 到達目標 | 各栄養素の構造と機能・栄養と健康の関わりについて説明できる。日本人の食事摂取基準(2020年版)を説明できる。                      |

## 授業計画

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 1  | 栄養学概説                                |
| 2  | 栄養素の機能 糖質                            |
| 3  | 栄養素の機能 脂質                            |
| 4  | 栄養素の機能 たんぱく質                         |
| 5  | 栄養素の機能 脂溶性ビタミン(ビタミンA)                |
| 6  | 栄養素の機能 脂溶性ビタミン(ビタミンD)                |
| 7  | 栄養素の機能 脂溶性ビタミン(ビタミンE・K)              |
| 8  | 栄養素の機能 水溶性ビタミン(ビタミンB1・B2)            |
| 9  | 栄養素の機能 水溶性ビタミン(ビタミンB6・B12・C)         |
| 10 | 栄養素の機能 水溶性ビタミン(葉酸・ナイアシン・パントテン酸・ビオチン) |
| 11 | 栄養素の機能 ミネラル                          |
| 12 | 栄養素の機能 水                             |
| 13 | 日本人の食事摂取基準総論 概念・指標・活用                |
| 14 | 日本人の食事摂取基準総論 各論                      |
| 15 | 日本人の食事摂取基準各論 ライフステージ別の活用             |

|                          |                          |                        |
|--------------------------|--------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>    | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>    | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                          |                        |
| 使用教材                     | 第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第5版 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                          |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 生理学   | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 宮田 祥子 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 身体の構造と機能、消化・吸収、自律神経とストレス、内分泌、ホルモンの作用を理解する。  |
| 到達目標 | 身体の構造と機能、消化・吸収、自律神経とストレス、内分泌、ホルモンの作用を説明できる。 |

授業計画

|    |                      |
|----|----------------------|
| 1  | 身体の構造                |
| 2  | 身体の器官の機能             |
| 3  | 加齢に伴う器官系の機能の変化       |
| 4  | 消化器系の構造              |
| 5  | 管腔内消化                |
| 6  | 膜消化・吸収               |
| 7  | 栄養素別の消化・吸収 糖質        |
| 8  | 栄養素別の消化・吸収 たんぱく質     |
| 9  | 栄養素別の消化・吸収 脂質        |
| 10 | 栄養素別の消化・吸収 ビタミン・ミネラル |
| 11 | 自律神経とストレス 自律神経       |
| 12 | 自律神経とストレス ストレス       |
| 13 | 内分泌                  |
| 14 | ホルモンの構造と作用機序         |
| 15 | ホルモンの分泌調節機構          |

|                          |                          |                        |
|--------------------------|--------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>    | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>    | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                          |                        |
| 使用教材                     | 第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第5版 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                          |                        |

|       |   |          |        |
|-------|---|----------|--------|
| 科目名   | 生化学   | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 南雲 恵理子  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義  | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |
| 学修内容  | 人間をはじめ全ての動植物が生活を営む中で、生体内では多様な反応が絶え間なく起こり、相互に働いている。生化学はその反応のメカニズムを理解する学問である。<br>講義では、糖質、脂質、タンパク質等の代謝、酵素反応のしくみ、シグナル伝達、免疫などについて学習する。 |          |        |
| 到達目標  | 糖質、脂質、タンパク質等の代謝、生命情報伝達の機構、免疫のしくみの基本を化学的に理解する。   |          |        |

## 授業計画

|    |                  |
|----|------------------|
| 1  | 生体成分、代謝、細胞       |
| 2  | 細胞の構造と機能         |
| 3  | 糖質の構造と機能         |
| 4  | 脂質の構造と機能         |
| 5  | アミノ酸・たんぱく質の構造と機能 |
| 6  | 酵素と代謝            |
| 7  | 核酸の構造と機能         |
| 8  | 糖質の代謝 (1)        |
| 9  | 糖質の代謝 (2)        |
| 10 | 脂質の代謝 (1)        |
| 11 | 脂質の代謝 (2)        |
| 12 | アミノ酸・たんぱく質の代謝    |
| 13 | 生体エネルギーと代謝       |
| 14 | 代謝調節と情報伝達の機構     |
| 15 | 免疫               |

|                          |                           |                        |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>     | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>     | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。 |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー 第5版       |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。   |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | 食品衛生学  | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 狩野 こず恵 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 学修内容 | 食品などの安全性や衛生管理について学ぶ       |
| 到達目標 | 食品などの安全性や衛生管理に関する知識を身につける |

授業計画

|    |                      |
|----|----------------------|
| 1  | 食品の安全とは              |
| 2  | 食品のリスク分析             |
| 3  | リスク評価                |
| 4  | リスク管理、リスクコミュニケーション   |
| 5  | 衛生管理                 |
| 6  | 適正製造規範（GMP）、トレーサビリティ |
| 7  | 遺伝子組み換え食品            |
| 8  | 添加物①                 |
| 9  | 添加物②                 |
| 10 | 食薬の区分、医薬品かどうかの基準     |
| 11 | 健康食品                 |
| 12 | 健康食品と添加物、ハーブ         |
| 13 | 健康食品のリスクコミュニケーション    |
| 14 | 保健機能食品①              |
| 15 | 保健機能食品②              |

|                          |                       |                        |
|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                       |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー（第一出版） |                        |
| 履修にあたっての注意               |                       |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | 健康食品学  | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 狩野 こず恵 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |                                    |
|------|------------------------------------|
| 学修内容 | 健康食品の制度や表示について学ぶ。                  |
| 到達目標 | 保健機能食品、特別用途食品、いわゆる健康食品の違いについて理解する。 |

授業計画

|    |           |
|----|-----------|
| 1  | 栄養機能食品①   |
| 2  | 栄養機能食品②   |
| 3  | 機能性表示食品①  |
| 4  | 機能性表示食品②  |
| 5  | 特別用途食品①   |
| 6  | 特別用途食品②   |
| 7  | 健康食品の全体像  |
| 8  | 特定保健用食品①  |
| 9  | 特定保健用食品②  |
| 10 | 保健機能食品①   |
| 11 | 保健機能食品②   |
| 12 | 保健機能食品③   |
| 13 | いわゆる健康食品  |
| 14 | 健康食品のまとめ  |
| 15 | 食品添加物について |

|                          |                       |                        |
|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                       |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー（第一出版） |                        |
| 履修にあたっての注意               |                       |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 栄養法規  | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | NRサプリメントアドバイザーの役割を理解し、食品や医薬品にかかわる法律について学習する。                     |
| 到達目標 | 食品機能の科学的根拠を学んだうえで、食品や医薬品がもつそれぞれの特性を理解し消費者に対し適切な情報提供を行えることを目標とする。 |

授業計画

|    |                                |
|----|--------------------------------|
| 1  | 食品の健康表示と安全性のための法律              |
| 2  | 健康増進法について（健康日本21、受動喫煙の防止）      |
| 3  | 健康増進法について（誇大広告の禁止）             |
| 4  | 食品衛生法について（食品添加物、いわゆる健康食品の健康被害） |
| 5  | 食品衛生法について（残留農薬、衛生管理）           |
| 6  | 食品安全基本法について（食品安全委員会の設置）        |
| 7  | 食品安全基本法について（安全性の確保、リスク管理）      |
| 8  | 医薬品医療機器法（食薬区分）                 |
| 9  | 景品表示法（不当表示等）                   |
| 10 | JAS法（農林物資の規格等）                 |
| 11 | 食品表示法（消費者庁の設置）                 |
| 12 | 食品表示法（食品表示基準）                  |
| 13 | 海外での関連法規（コーデックス委員会、EUの関連法規）    |
| 14 | 海外での関連法規（アメリカ合衆国・アジアの関連法規）     |
| 15 | 今後の改正について                      |

|                          |                               |                        |
|--------------------------|-------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>         | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>         | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 日常生活においても、医薬品や健康に関する情報に関心を持つ。 |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー 第5版           |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。       |                        |

|       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 科目名   | 生活習慣病概論 | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 茂木 健    | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義      | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の健康の状況、生活習慣病の概要を学ぶ。</li> <li>・主な生活習慣病の病態を学ぶ。</li> <li>・生活習慣の健康への影響を学ぶ。</li> </ul>                      |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の健康の現状を説明できる。</li> <li>・主な生活習慣病を挙げることができ、その病態、原因を理解している。</li> <li>・脚煙 飲酒 ストレスなどの生活習慣の指導ができる</li> </ul> |

授業計画

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 1  | 生活習慣病とは                    |
| 2  | 寿命と人口構成の変化                 |
| 3  | 食生活や生活環境の変化                |
| 4  | 疾病構造の変化                    |
| 5  | 疾病の発症における遺伝的要因と環境要因        |
| 6  | 生活習慣病の概念と特定健康診査・特定保健指導     |
| 7  | 生活習慣病 各論（肥満、メタボリックシンドローム）  |
| 8  | 生活習慣病 各論（脂質異常症、動脈硬化、高尿酸血症） |
| 9  | 生活習慣病 各論（高血圧症）             |
| 10 | 生活習慣病 各論（糖尿病）              |
| 11 | 生活習慣病 各論（CKD）              |
| 12 | 生活習慣病 各論（COPD）             |
| 13 | 生活習慣病 各論（がん、認知症）           |
| 14 | タバコとアルコールの健康影響             |
| 15 | 生活習慣と疾患（睡眠、ストレス、紫外線、口腔ケア）  |

|                          |                             |                        |
|--------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>       | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>       | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                             |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー-必携 第4版 第一出版 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                             |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 臨床栄養学 | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 茂木 健  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床栄養学の基礎を学び、栄養状態の評価、栄養摂取量の設定を行う。</li> <li>・ライフステージ別に栄養、身体活動を学ぶ。</li> <li>・主な生活習慣病の病態とその栄養について学ぶ。</li> </ul>     |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日のエネルギー摂取量の設定ができる。</li> <li>・各疾患の栄養管理の基本を理解している。食品交換表を使用できる。</li> <li>・臨床検査の意義を理解し、その基準値と疾患の関連がわかる。</li> </ul> |

授業計画

|    |                                  |
|----|----------------------------------|
| 1  | 栄養アセスメントと栄養療法                    |
| 2  | エネルギー設定と栄養素配分                    |
| 3  | 栄養投与経路                           |
| 4  | ライフステージと栄養(小児期、妊娠期、高齢期)          |
| 5  | 疾病予防と健康寿命                        |
| 6  | がんの予防                            |
| 7  | アンチエイジング、長寿医学                    |
| 8  | 病態栄養 各論（肥満症、糖尿病、動脈硬化症、高血圧症、腎疾患）  |
| 9  | 病態栄養 各論（慢性閉塞性肺疾患、肝疾患、炎症性腸症候群、がん） |
| 10 | 糖尿病治療のための食品交換表                   |
| 11 | 医療施設で用いられる臨床検査                   |
| 12 | 身体活動と栄養                          |
| 13 | 生活習慣病の予防と治療における運動療法              |
| 14 | ライフステージと身体活動                     |
| 15 | スポーツ医学と栄養                        |

|                          |                             |                        |
|--------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>       | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>       | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                             |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー-必携 第4版 第一出版 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                             |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 臨床薬理学 | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 医薬品の体内動態について正しく理解し、その作用（生理機能の変化）における食品やサプリメントとの相互作用について知る。 |
| 到達目標 | サプリメントを取り扱う際、医薬品との併用・相互作用などのリスクを消費者に情報提供できる。               |

授業計画

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 1  | 医薬品の定義（目的・条件）                       |
| 2  | 医薬品のプロセスと分類                         |
| 3  | 医薬品の作用機序（作用部位と生理反応）                 |
| 4  | 受容体（受容体を介して作用するアドレナリン、インスリン、ヒスタミン等） |
| 5  | イオンチャネル（チャネルを介して作用する医薬品）            |
| 6  | 酵素（酵素を介して作用する医薬品）                   |
| 7  | 副作用について（用量作用曲線、プラセボ、生理機能の変化）        |
| 8  | 医薬品の代謝・吸収                           |
| 9  | 医薬品の分布・排泄                           |
| 10 | 医薬品の経路（経口、経皮、口腔、直腸投与）               |
| 11 | 医薬品の剤形（内用剤、外用剤、注射剤）                 |
| 12 | 医薬品の相互作用（吸収・分布の過程における相互作用）          |
| 13 | 医薬品の相互作用（代謝・排泄の過程における相互作用）          |
| 14 | 食品と医薬品の相互作用（グレープフルーツジュース、ビタミンKなど）   |
| 15 | 食品と医薬品の相互作用（チラミン、ミネラルなど）            |

|                          |                                  |                        |
|--------------------------|----------------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>            | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>            | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。        |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー 第5版 / 薬が見えるVOL.1 |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。          |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | 食品機能概論 | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | NRサプリメントアドバイザーの役割を理解し、食品に含まれる成分の機能について学習する。  |
| 到達目標 | 食品機能の科学的根拠を学んだうえで、消費者に対し適切な情報提供を行えることを目標とする。 |

授業計画

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 1  | NRサプリメントアドバイザーとは          |
| 2  | アドバイザースタッフの役割             |
| 3  | 食品機能の科学的根拠（動物・ヒト試験）       |
| 4  | 保健機能食品の科学的根拠 おなかの調子を整える食品 |
| 5  | おなかの調子を整える食品              |
| 6  | 高コレステロール・高血圧適する食品         |
| 7  | ミネラル・骨・歯に関する食品            |
| 8  | 血糖値に関する食品                 |
| 9  | 血中中性脂肪・体脂肪に関する食品          |
| 10 | 食品のリスク                    |
| 11 | 特定保健用食品の安全性               |
| 12 | 食経験からみた安全性                |
| 13 | 動物・ヒト試験における安全性            |
| 14 | 関与成分における安全性               |
| 15 | 食品の安全性・有効性に関する情報          |

|                          |                           |                        |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>     | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>     | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 日常生活においても、健康に関する情報に関心を持つ。 |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー 第5版       |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。   |                        |

|       |       |          |        |
|-------|-------|----------|--------|
| 科目名   | 行動科学論 | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 宮田 祥子 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義    | 単位数：授業時数 | 1 15時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 行動科学の立場から現代学習理論の原理を理解し、行動療法に結び付ける方法と行動変容について学ぶ。             |
| 到達目標 | 行動科学の立場から現代学習理論の原理を理解し、行動療法に結び付け、行動変容につながるカウンセリングができるようになる。 |

授業計画

|    |                         |
|----|-------------------------|
| 1  | 行動科学と現代心理学              |
| 2  | 行動科学と学習理論 学習理論          |
| 3  | 行動科学と学習理論 古典的条件付け       |
| 4  | 行動科学と学習理論 道具的条件付け       |
| 5  | 行動科学と学習理論 条件付けにおける強化と消去 |
| 6  | 行動科学と学習理論 行動変容          |
| 7  | 行動科学と行動療法               |
| 8  | 認知行動療法                  |
| 9  | 保健指導を支える心理学の理論 理論横断モデル  |
| 10 | 保健指導を支える心理学の理論 健康信念モデル  |
| 11 | 行動変容と心理学的技法             |
| 12 | カウンセリングの方法              |
| 13 | 認知行動療法の生活習慣病へのアプローチ     |
| 14 | カウンセリング技法によるアプローチ       |
| 15 | 認知行動療法の応用による心疾患へのアプローチ  |

|                          |                          |                        |
|--------------------------|--------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>    | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>    | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                          |                        |
| 使用教材                     | 第一出版 NR・サプリメントアドバイザー 第5版 |                        |
| 履修にあたっての注意               |                          |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | NR対策ゼミ | 開講時期     | 2年 前期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | NR・サプリメントアドバイザー通信講座の閲覧。<br>各章の対策問題による試験対策。 |
| 到達目標 | NR・サプリメントアドバイザー試験の合格。                      |

授業計画

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 1  | オリエンテーション・復習・開講にあたって配信講座      |
| 2  | NRサプリメントアドバイザーの役割と倫理（配信講座/問題） |
| 3  | 基礎の生理学（配信講座/問題）               |
| 4  | 基礎の生理学（配信講座/問題）               |
| 5  | 基礎の生化学（配信講座/問題）               |
| 6  | 基礎の生化学（配信講座/問題）               |
| 7  | 人間栄養学（配信講座/問題）                |
| 8  | 人間栄養学（配信講座/問題）                |
| 9  | 生活習慣病概論（配信講座/問題）              |
| 10 | 生活習慣病概論（配信講座/問題）              |
| 11 | 臨床栄養（配信講座/問題）                 |
| 12 | 臨床検査と身体活動と栄養（配信講座/問題）         |
| 13 | 臨床検査と身体活動と栄養（配信講座/問題）         |
| 14 | 食品安全衛生学（配信講座/問題）              |
| 15 | 食品安全衛生学（配信講座/問題）              |

|                          |                           |                        |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>     | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>     | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。 |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー 第5版       |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。   |                        |

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
| 科目名   | NR対策ゼミ | 開講時期     | 2年 後期  |
| 担当講師  | 齋藤 絵美  | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義     | 単位数：授業時数 | 4 60時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | NR・サプリメントアドバイザー通信講座の閲覧。<br>各章の対策問題を解説。 |
| 到達目標 | NR・サプリメントアドバイザー試験の合格。                  |

授業計画

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 1  | 健康食品（通信講座/問題）         |
| 2  | 臨床薬理学（通信講座/問題）        |
| 3  | 食品機能の科学的根拠（通信講座/問題）   |
| 4  | 行動とカウンセリング（通信講座/問題）   |
| 5  | 認定試験対策問題：生理学          |
| 6  | 認定試験対策問題：生化学          |
| 7  | 認定試験対策問題：人間栄養学        |
| 8  | 認定試験対策問題：生活習慣病概論と臨床栄養 |
| 9  | 認定試験対策問題：臨床検査と身体活動と栄養 |
| 10 | 認定試験対策問題：食品安全衛生学      |
| 11 | 認定試験対策問題：健康食品         |
| 12 | 認定試験対策問題：臨床薬理学        |
| 13 | 認定試験対策問題：食品機能の科学的根拠   |
| 14 | 認定試験対策問題：行動科学とカウンセリング |
| 15 | 認定試験対策問題：国内外の関連法規     |

|                          |                           |                        |
|--------------------------|---------------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/>     | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/>     | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 | 認定試験を意識し、各自配信講座を繰り返し閲覧する。 |                        |
| 使用教材                     | NR・サプリメントアドバイザー 第5版       |                        |
| 履修にあたっての注意               | 欠席をした場合は、講義内容の確認し指導を仰ぐ。   |                        |

|       |      |          |        |
|-------|------|----------|--------|
| 科目名   | 医療事務 | 開講時期     | 1年 前期  |
| 担当講師  | 壘 亮平 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義   | 単位数：授業時数 | 3 45時間 |

|      |  |
|------|--|
| 学修内容 | 医療機関の概要・医療保険のしくみ、その他の関連制度<br>薬局の基礎知識、調剤報酬算定方法、レセプト作成方法                 |
| 到達目標 | 医療機関の概要・医療保険のしくみ、その他の関連制度、薬局の基礎知識についての知識を習得する。また、調剤報酬の算定方法を理解できるようにする。 |

授業計画

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | 医療機関と薬局（医療機関、薬局の役割や関係について）         |
| 2  | 医療保障制度（医療保障制度の体系、医療保険制度と種類）        |
| 3  | 保険給付（保険給付の範囲と種類、給付割合と患者負担、高額療養費）   |
| 4  | 調剤薬局での事務の仕事（日常業務、請求事務）医療事務スタッフの心構え |
| 5  | 公費負担医療（制度と概要、その他助成制度、レセプトの記載）      |
| 6  | 労災保険、介護保険 医療事務制度の理解度チェック           |
| 7  | 薬局の基礎知識、調剤報酬算定にあたって（処方せんの基礎知識）     |
| 8  | 薬剤の基礎知識、算定の基礎（記載内容、区分、投与量、服用使用方法）  |
| 9  | 算定にあたっての基礎知識（受付回数、1剤、1調剤についての理解）   |
| 10 | 調剤報酬の算定 調剤基本料 薬剤料 電卓機能             |
| 11 | 調剤料の算定（内服薬、内服用滴剤、屯服薬、外用薬、注射薬）      |
| 12 | 調剤料の加算について①                        |
| 13 | 調剤料の加算について②                        |
| 14 | 薬学管理料について 調剤報酬算定のまとめ               |
| 15 | 薬の基礎知識、医療事務員の接遇マナー                 |

|                          |                       |                        |
|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                       |                        |
| 使用教材                     | 調剤薬局事務講座テキスト          |                        |
| 履修にあたっての注意               |                       |                        |

|       |      |          |        |
|-------|------|----------|--------|
| 科目名   | 医療事務 | 開講時期     | 1年 後期  |
| 担当講師  | 壘 亮平 | 区分       | 一般     |
| 授業の方法 | 講義   | 単位数：授業時数 | 2 30時間 |

|      |   |
|------|---|
| 学修内容 | 調剤報酬算定のまとめ、レセプト作成、点検、学科問題、資格試験対策              |
| 到達目標 | 調剤報酬算定など、調剤事務管理士に必要な知識を習得し、調剤事務管理士試験合格を目標とする。 |

授業計画

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 1  | レセプトの作成 レセプトの基礎知識 記入方法 点検  |
| 2  | 薬価基準表 レセプト作成練習問題 解説        |
| 3  | レセプト作成練習問題 解答解説            |
| 4  | レセプト点検問題の解き方               |
| 5  | レセプト点検問題の練習 解答解説           |
| 6  | 学科問題の解き方 テキストからの検索         |
| 7  | 学科問題の練習 解答解説               |
| 8  | レセプト作成 処方せん1枚の場合           |
| 9  | レセプト作成 処方せん2枚受付の場合         |
| 10 | 調剤試験問題① レセプト点検、レセプト作成、学科問題 |
| 11 | 調剤試験問題② レセプト点検、レセプト作成、学科問題 |
| 12 | 調剤試験問題③ レセプト点検、レセプト作成、学科問題 |
| 13 | 調剤試験問題④ レセプト点検、レセプト作成、学科問題 |
| 14 | 調剤試験問題⑤ レセプト点検、レセプト作成、学科問題 |
| 15 | 医療事務員の受付接客について 日本の医療費について  |

|                          |                       |                        |
|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 評価方法<br>(どちらかに<br>○をつける) | <input type="radio"/> | 筆記試験で評価する              |
|                          | <input type="radio"/> | 筆記試験・出席状況・授業態度・課題で評価する |
| 授業時間外の学習                 |                       |                        |
| 使用教材                     | 調剤薬局事務講座テキスト          |                        |
| 履修にあたっての注意               |                       |                        |